

ちと云、神在餅と書也土佐にてじんざい煮といふ、土州にては小豆に餅を入れて醤油にて煮、砂糖をかけて喰ふ、神在煮又善在煮など、稱すとなり。○中略

しるこ餅 江戸にてしるこ餅、京にてせんび、西國にてゆるいこ出雲にてにごみ、越後にてざふに、上野及駿河にてゆるこ、總州及常陸下野邊にてせんびんと云、染餅と書加賀にてあづさがゆ、薩摩にておとしれとよぶ。

〔類聚名物考 飲食〕せんざい 善哉

今案善哉は今江戸の俗に云しるこ餅の事也、古へは皆せんざいと云しなり、善哉の文字は、後に墳たる事なり、然れども京都にてもしるこ餅といひし事も、ふるき俗言にや、その故は今上野東叢山にては、此善哉餅を長谷餅といふ、その故いかにといへば、京都近江の三井叢山より京へ出る道に、長谷越といふあり、今俗にはしるたにごえといふ、清水の山中へかゝりて、溪谷の間を行道故に、常の道のあしく、清水ながれて、道の泥濘のしるき故にしかいふ也、この善哉餅も亦小豆の粉の煮られて、しるくねばる故、谷道のあしきが如くなれば、俗にしるこ餅といふを、それより轉て長谷餅とはいふなり、是みな俗言なれども、云傳ふる所も又久しき歟、日光山内にては、やはり善哉ともすることもいへども、東叢山内のみにては長谷餅とはいふ也、今又京都に千歳餅あり、善哉と千歳と音をかよはしたり、

長谷餅 ながたにもち

本名は善哉といふ、俗に云しるこもち也、その故は上にみえたり、善哉を今京言につねにいへり、又俗に千年餅とす音の轉なり、

〔嬉遊笑覽十上〕祇園物語又云、出雲國に神在もちひと申事あり、京にてせんざいもちひと申は、是申あやまるにや、十月には日本國の諸神、みな出雲に集り給ふ故に、神在と申なり、その祭に赤小